

## 外来担当医表

土曜日は休診です

※2013年10月1日現在の内容です。

※担当医は予告なく変更になることがあります。

	月	火	水	木	金
午前	中島	野本	村上	横田	松本
	相良		城野	藤永	
午後 予約			城野	(非常勤)	

### 病院理念

私たちが向陽台病院は、地域医療のなかで安全で効果的な精神科医療を提供するために、職員の知恵を結集し、迅速かつ包容力のある対応ができる病院を目指します。

### 患者の権利

1. 良質な医療サービスを平等に受ける権利があります。
2. 人格・意思が尊重され、人間としての尊厳を守られる権利があります。
3. 自分自身の診療に関する情報の提供を受ける権利があります。
4. 医療従事者から説明を受けた後に、提案された診療計画などを自分で決定する権利があります。また、他の医療機関の医師の意見（セカンド・オピニオン）を求める権利があります。
5. プライバシーを尊重される権利があります。



### 医療法人横田会 向陽台病院

〒861-0142 熊本市北区植木町鏡田1025  
TEL: 096-272-7211 FAX: 096-273-2355

<http://www.koyodai.or.jp/>



当日の診察順番をコチラから受付できます

再来専用受付システム



当院は、2005年から財団法人日本医療機能評価機構の認定を受け、2010年にVer.6.0で再認定されています。



当院は「情報公開レベル優良施設」として、はとはあと評価（認定3/Stage-1）の第三者評価認定を受けています。

● 日本精神神経学会専門医研修指定病院

● 日本精神科病院協会認定専門医研修病院

# こもれび



今号の表紙：デイケア・病棟の患者さんによるビーズ細工作品

病気のおはなし

**不登校とアスペルガー障害**

受付システム導入で目指すもの

アルコールミーティング

こもれびリレーエッセイ

第11回・濱本晋也

そよ風家族会通信

こもれびぶらぎ

夏休み思春期合同プログラム開催！

KOMOREBI  
2013.Autumn

vol.39



医療法人横田会 向陽台病院は今年9月、創立50周年を迎えました。

執筆者：診療部 医師 笠原 憲人

# 不登校とアスペルガー障害

文部科学省の不登校の定義は「(途中略)年間30日間以上の欠席をした者のうち、病気や経済的な理由によるものを除いたもの」となっています。「30日間」と聞くとさほどでもないと思われるかもしれませんが、公立小中学校での年間登校日数は200日ほどであり、授業実施期間における6〜7日のうち1日は休んでいることとなります。その基準に当てはまる中学生は平成22年の調査では37人に1人(およそクラスに1人)となっています。

不登校の原因は実にさまざまです。書ききれませんが、不登校で困っていらつしやるお子さんの中には「アスペルガー障害」の特性を持っていることが時々見受けられます(「アスペルガー障害」と同様に「自閉症



スペクトラム障害」や「広汎性発達性障害」という言葉が使われることがあります)。その特性は主として以下の3つです。

- 対人関係の構築が不得手である(他人とうまく関われない)
- コミュニケーションが不得手である(会話や意思の伝達がうまく出来ない)
- 興味、関心の対象が限られている

これらの特性のうち、困り感につながるの是最初に挙げた「対人関係の構築」の問題が多いようです。人は一般的に本音と建前を使い分けることが多いのですが、アスペルガーの特性を持った方々は非常に正直で誠実である一方、その正直過ぎる言動、行動が相手を不愉快にさせてしまうことがあります。また、自分自身の行動、言動が周囲の人にはどのように映るかイメージするのが苦手なため、周囲との関係が悪化していじめの対象になってしまったり、本人が孤独を感じてしまったりします。次第に「クラスメイトがいる教室内で

今回は、不登校の原因のひとつ、アスペルガー障害についてお話しします。アスペルガー障害が見過ごされてしまうと、対人関係でトラブルを重ね、いじめや親から子への虐待、深刻な「心の病」を発症してしまうこともあるのです。

皆と共に過ごすだけ」ですら強い緊張を強いられ、疲れ切った状態となります。ますます登校し辛くなっていきます。そして、気分が落ち込む、自宅に引きこもりがちになってしまいう、昼夜逆転してパソコン、携帯電話、ゲームなどに1日中没頭するようになることがあります。無理やり部屋から出そうとすると激しく抵抗して親と喧嘩し暴力を振るう。などの悪循環に陥ってしまうことがよくあります。

不登校の治療ですが、外来でも入院でも決まりきった治療はありません。個々のケースによってさまざまです。しかし、入院した場合、まず一定期間は休養を取っていただくことがほとんどです。彼らは活動していないし疲れてもいないだろう、と思われるかもしれませんが、しかし、前述のとおり常に緊張を強いられる不登校のお子さんには疲れ切っていることが多いのです。また、気分の落ち込み、不安、衝動性に基づく暴力行為などの症状がある場合は薬物治療が

助けになることがあります(薬によってアスペルガーの「特性」が変わるわけではありません)。

その他、精神療法(個別・集団)やカウンセリングなどで考え方のクセについて話しあったり、社会生活技能訓練：Social Skills Training (SST)でルールやマナーを改めて学ぶこともありません。SSTでは具体的な対人場面を想定し、集団内でロールプレイを行ったりしています。

以上のように、医療機関では不登校のお子さんが社会でうまくやっいていけるようになるためにさまざまなアプローチをしています。もちろん家庭や学校などの協力も必要不可欠で、連携を取りながら対処していくこととなります。

## お詫びと訂正

前号(38号)「麻酔今昔物語」の中で、「パルスオキシメーター(PaO2)」との表記がありました。したが、正しくは「パルスオキシメーター(SpO2)」でした。訂正いたします。

# 受付システム導入で目指すもの

執筆者：情報管理室 惣門 裕輔



7月末に当院でも受付システムを導入いたしました。快適な外来診察環境を患者さんへ提供している中の一環としてのことです。一言で受付システムといっても種類はいくつかありますが、大きく分けて2種類あります。ひとつは「外来予約システム」もうひとつは「外来順番待ちシステム」です。

## 外来予約システム

その名のとおりに予約が取れるシステムです。予め、日時を指定しておくことができるので、患者さんが待つことはほとんどなくなります。ただし、1日に予約できる

枠が決められてしまうため、希望の日時に受診できるチャンスは低くなると共に、思い立ったその日に診察を受けることも難しくなります。

## 外来順番待ちシステム

あくまでも当日の診察順番を事前にとっておくシステムです。ですので、待ち時間がゼロになるわけはありませんが、目安となる待ち時間や進行状況を実感することができると、待つことへのストレス軽減にはつながります。

こちらは、枠が制限されていないので思い立ってからも受診す

ることはできますが、完全な予約ではない分、待ち時間がなくなるわけではないのがもどかしいところです。

今回、当院では現在の診療体制を鑑みて、後者の「外来順番待ちシステム」を導入する事にしました。まだまだ、導入開始したばかりですので患者さんへもこの情報が浸透していません。また、当院のスタッフにも運用面の見直しから始めてもらいましたので、現時点ではスムーズな運用には至っていません。今後、数か月単位で導入前後の状態を比較し、改善を繰り返すことで、効果的な運用を目指していくつもりです。場合によっては、前述した「外来予約システム」へシフトしたほうが良いという判断もあるかもしれませんが、それもこれも、これからの患者さんの反応にかかっています。じっくりと精査していかねければなりません。

また、今回のシステム導入に伴いデイケア診察も運用が変わりました。デイケア担当医に、デイケアに来られた患者さん全般を見ていただけることになりました。これにより、月曜から木曜の間はデイケアの患者さんはいつでもデイケア担当医の診察を受ける事が可能です。もちろん患者さんのご希



この画面で受付をして、患者さんをできるだけお待たせしないようにしています。

望に応じて、今までどおり外来にて主治医の診察を受けることも可能ですのでご心配なく。

患者さんならびに外来にかかわるスタッフの皆さまには、ご迷惑・ご負担をおかけしている面もあると思いますが、ご協力・ご理解のほどよろしくお願いいたします。今後、待合室も含め、より良い環境にしていくように、医療管理部としても考えておりますので、何か良いアイデアがありましたらお近くの医療管理部スタッフまでお知らせください。



「アルコールプログラム」スタッフ

# アルコールミーティング

執筆者：地域連携科 精神保健福祉士 吉田 祥子

当院では、アルコール依存症と診断された方や飲酒問題を抱えた方に対して、アルコールプログラムを行っています。当院のアルコールプログラムは3つあり、参加費はいずれも無料です。

## ●アルコールミーティング

毎週月曜（10時～11時）  
メンバーとスタッフで決めたテーマをもとに、自身の飲酒問題や葛藤を話し合います。

## ●アルコール勉強会

毎週水曜（13時30分～14時30分）  
テキストを使いながら、アルコール依存症に関する知識を深めていきます。

この2つは当院に通院中もしくは入院中の方が対象で、主治医の指示が必ずです。

## ●院内断酒会

毎月第3土曜（10時～11時30分）  
当事者やその家族、支援者が集まり、酒害体験を語り共有します。これは当院以外の病院やクリニックにかかっている方でも参加可能です。

参加者はだいたい10名前後で、多い時には20名ほどになります。入院中の方は主治医やスタッフから勧められ、しづしづ参加される方が多いのです。



アルコールミーティング風景



アルコール勉強会の様子

が、およそ3カ月の入院治療の中で、少しずつ、自分の飲酒問題が自分や周囲の人たちにとどのような影響を及ぼしたかを振り返り、退院後も参加していたことが多くあります。時に感情を露わにすることがあっても、止めていたお酒をまた飲んでしまつて落ち込んでいても、他のメンバーが「自分もそうだった」と共感し、優しくサポートしてくれたり、相手を思つて時には厳しいことを言ってくれたりメンバー同士の交流が多く、いつも皆さんの力に心をうたれます。また、地域の断酒会などに参加して、どんどん断酒の輪を広げるメンバーが、院内断酒会に新たな仲間を連れてきてくれることも大変嬉しいことです。

このプログラムは平成9年から始まり、私は平成16年から参加していま

す。初めの頃は、若いスタッフばかりで、失敗も多かったのですが、自分たちの課題やグループの課題を共有したり、メンバーからいろいろなことを教えてもらいながら続けてきました。

アルコール依存症から回復するためには断酒をするしかないと言われていました。しかし、これまで飲み続けてきたお酒を一人で止めるということは並大抵のことではありません。お酒を止めることに加え、ご本人やご家族自身が抱えているさまざまな気持ちや、これまでの生き方、考え方、他者とのつきあい方などの癖を見つめ、それを癒し、自分自身で回復していくことが大切です。スタッフにできることは少なく、グループに寄り添い続ける覚悟を持つことと、継続して参加したいと思つてもらえるような場を作ることだと私は思っています。このグループを通して皆さんの学びを得て、少しは成長できているかなと感じさせてもらっている今日この頃です。今後、メンバーそれぞれの回復に寄り添い、ともに成長していけたらと思っています。



# こもれびりレーIッセイ



● 第11回：リハビリテーション部 臨床心理士 濱本晋也

## 自分を整える

「お気に入りの」というものが誰にでもある。それは、本でも音楽でも映画でも、作業でも、場所でも時間でも匂いでもいいと思う。明日の仕事を考えて気持ちが入らなったり、終わらない業務の締切りが頭の中をチラチラ霞めたりしていても「お気に入りの」を始めると何だかゆるゆるとなってきて、自分を取り戻して力が少し湧いてくる。好きな世界に浸って現実から少し距離が取れるからだと思う。例えば、映画「耳をすませば」のヒロイン「雫」の恋人「誠司」が、帰国した冬の朝に2人乗り自転車で行ったのは、町が一望できる彼のお気に入りの高台で、彼は思いきってプロポーズをした…。若干マイナーで少々ピントの外れた例えが僕らしい。

さて、僕にも「お気に入りの」がいくつかある。一つはウネウネとした山道をバイクで走り抜けている時。下手なりにコーナーをイメーシしながらエンジンの音を聴いていると悦に入る。もう一つは、街中を歩いていてどこからともなく漂ってくるお線香の匂いをかいだ時。田舎に帰ったような錯覚を覚える。簡単に帰省できて便利。そしてもう一つ。僕はトイレが好き…。表現がダイレクトすぎるので言い換えてみる。トイレの個室は僕のお気に入りの場所…。大して変わらないが、この話を最初にもってくる誤解されそうだったので適当な前ふりをしてきた。本筋はこれから。

トイレはどこにもあるけれど、どんなでもいいわけではない。新しいか古いかは気にしないが清潔さは必須。床が濡れているようなのは苦手。和式ではなく洋式。できれば水を流すのは、手をかざすような変なセンサーではなく、しっかりとしたレバーボタンが付いているのが好ましい。トイレの電灯も自分でオン・オフできるのがよい。黙って座って自分の時間を過ごしている時に、自動的に消えてしまうと天井にあるセンサーに向かって「ここに居ますよ」と上体を揺らさないとならない。ものすごい現実に戻される感じがして、折角の時間が台無しになってしまう。あとは、広すぎるのも問題だ。

その意味で、向陽台のトイレはなかなかよい。午前中の業務の進捗状況が芳しくない時は、昼休みに籠って本を読むこともある。人の迷惑を顧みず、である。時間は10分ほどだろうか。そうやって僕は、午後に向けて自分を整えようとしている。職場に自分をリフレッシュする「お気に入りの」場所があるのは幸せ…。のはず。

これを書いていたら、小学生の時に友だちが書いた詩を思い出した。前後は忘れたけれど、確かこんな感じだった。「毎朝トイレに行って、昨日の嫌なことを流してしまっ」。いろんな匂いを流せばトイレは便利な所だ。

この流れて申し訳ないが……

▼次回予告 地域連携科 吉田祥子科長にパトントンタッチ



## そよ風家族会 通信

リハビリテーション部 精神保健福祉士 木村千尋

暑さも本番となった、7月27日(土)にそよ風家族会を開催しました。今回は、高森信子氏の「あなたの力が家族を変えろ」という家族のためのSST (Social Skills Training) 社会生活技能訓練)のDVD鑑賞と座談会を行い、16名のご家族が参加されました。

DVDでは家族が日ごろ当事者と接する中で、否定せず共感することや褒めること、心配しすぎずに相手と自分を分けて考えることなど、たくさんヒントや具体例が挙がりました。メモを取りながら熱心に鑑賞される方もおられ、「関わり方の参考になった」などの感想がありました。座談会では3つのグループに分かれ、実際に関わりの中で困っていることや親亡きあとについてなど、さまざまなテーマで話があり、その中で長く参加されているご家族から「そんなこともある

よ。でもどうにかなるから大丈夫」とアドバイスがあったり、「自分だけではないんだ」と想いを共有したりする場面もありました。

家族会などへ参加するたびに、一人でも多くのご家族が家族同士だからこそ分かる苦しみや悩みをこういった場で吐きだし、よりいっそう元気に過ごしていただければと思います。

今回は当事者の中村敏氏をお招きし、当事者研究について講演を予定しています。次回はお家族だけでなく、当事者の方も参加いただけますので、たくさんのご参加お待ちしております。

### 次回の予定

● 平成26年1月25日(土)  
午前10時～午後12時

▼会場：リュミエール活動室  
詳しくは

☎0966-2721-7211  
までお問い合わせください。

# こもれびふらざ

向陽台病院の最新ニュースやお知らせなどをお届けします。

## 夏休み思春期合同プログラム開催!

リハビリテーション部 臨床心理士 中野 愛



### 1日のスケジュール

10:00	<b>思春期プログラム</b> < 朝の会 > 体調確認・約束確認
10:20	個別活動(創作・将棋・トランプなど) もしくは
11:30	特別企画(植物栽培・収穫体験・かき氷作り)
12:00	< 昼食 >
13:30	<b>学習支援</b> 約束の確認・姿勢の練習・自己紹介
13:50	学習①(40分)
	< 休憩 >
14:40	学習②(30分)
	感想

当院では、思春期の患者さんを対象として、病棟とデイケアの合同で毎週水曜日の午後に学習支援を行っています。毎年、夏休み期間には博士クラブ(月1回の発達障害の子どもたちを対象としたプログラム)の子ども達も一緒に、実施日を増やして活動しています。さらに、今年の夏は学習支援だけでなく、午前中にも室内ゲームや創作などの思春期プログラムを病棟とデイケアの合同で行いました。

思春期プログラムでは、スタッフと共にプラモデルやミサンガを作ったり、将棋やボードゲームをしたりと、自分の取り組みたいものを選択してゆつくりと過ごします。子どもたちが同年代の集団内で過ごすことに慣れるのを狙いとして、学校やフリースクールなど、集団の中で過ごす練習も兼ねています。また、個々の活動だけでなく、植物栽培やかき氷作りなどの特別企画も計画しました。8月初頭にはデイケアの園芸活動で育てているトマトやナス、ゴーヤ、オクラといった旬の野菜を収穫しに院内にある畑へと行きました。最初は外のあまりの暑さにバテ気味だった子どもたちも、いざ野菜を自分の手でもぎ取ると笑顔になっていました。自分たちで取ったトマトは格別の味がするようで、「おいしい!」という声が上がっていたのが印象的でした。



午後の学習支援では、最初に姿勢の練習をしています。学習中の様子

法科、栄養科、臨床心理科：と、たくさん部署と連携しながらプログラムを行い、平均して1日20名ほどの方に参加していただきました。私自身もこのような形でプログラムを運営するのは初めてのことです。戸惑いも大きかったのですが、周りのスタッフはもちろん、参加者のみなさんに助けられながら開催することができたと感じています。ありがとうございます。今後は、博士クラブの親の会を拡大して、病棟、デイケアのご家族へのサポートも行っていく予定です。ぜひ、ご参加ください。

病棟、デイケア、なでしこ、作業療と、たくさん部署と連携しながらプログラムを行い、平均して1日20名ほどの方に参加していただきました。私自身もこのような形でプログラムを運営するのは初めてのことです。戸惑いも大きかったのですが、周りのスタッフはもちろん、参加者のみなさんに助けられながら開催することができたと感じています。ありがとうございます。今後は、博士クラブの親の会を拡大して、病棟、デイケアのご家族へのサポートも行っていく予定です。ぜひ、ご参加ください。

## 診療のごあんない

- 診療科目：精神科・心療内科・児童精神科
- 病床数：202床
- 外来診療時間  
【月～金曜日】 9時40分～16時  
(ただし、受付は12時30分まで)  
【土・日曜日】 休診

祝日は平常どおり診療しています

## 交通アクセス

- 産交バス 向坂バス停から徒歩3分  
投刀塚バス停から徒歩3分
- 車 植木ICから10分
- JR 植木駅下車 → タクシーで6分

## アクセスマップ



## 初めて受診される方へ

当院は予約制です。  
初めての方は、地域連携室へお電話ください。  
☎ 096-272-5250  
電話受付時間  
【月～金曜日】 9時～16時30分  
電話の際、①お名前 ②相談内容 ③連絡先 などをおうかがいし、予定の日時を決めます。

当初の所要時間は問診や診察、検査などを含め、2時間程度とお考えください。

**動向を探る** 向陽台病院を利用されている患者さんの動向を掲載しています。

集計月	外来延数	新患者数	1か月ごとの入退院者数	
			入院	退院
2013年6月	2,435	44	39	39
2013年7月	2,783	56	50	49
2013年8月	2,841	53	42	62

(単位：人)

## 「こもれび」に関するご意見・感想をお待ちしています!



私たちは「こもれび」とおして、皆さまに役立つ情報をお届けできればと作成しています。皆さまの率直なご意見をお聞かせください。(向陽台病院 広報委員会)

## 編集後記

向陽台病院は、今年9月15日に創立50周年を迎えました。病院の歴史を振り返る機会があり、古いアルバムや映像、文章などを見ていたのですが、ここ数年の変化が一番目立ちました。当院に限らず、精神科臨床は大きく変化しているのだと感じます。これからどうなっていくのかワクワクしながら仕事ができると思います。今後とも、向陽台病院をよろしく願っています。  
(濱本晋也)